

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

迎春

二〇〇二年一月一日

洛友会役員

幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	北海道支部長	東北支部長	北陸支部長	九州支部長	四国支部長	中国支部長	中部支部長	関西支部長	東京支部長	副会長	副会長	副会長	会長
松本	石川	吉田	神戸	木村	池内	大島	中島	岡藤	近藤	池野	大内	伊藤	角藤	宅間	池上	大嶋	近藤
博三	進夫	根根	則寛	一彦	三三	一彰	一夫	董夫	董夫	文治	文治	文治	文治	文治	文治	文治	文治

年頭のご挨拶と初夢物語

「ナノテクノロジー」

洛友会会長 近藤 文治 (昭18年卒)

明けましてお目出度うございませす。年頭に当たり会員各位とご家族の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。

さて昨年は21世紀第1年目の年として、新世紀の幕開けを飾るにふさわしい活気のある平和な年であることを期待したのであります。が、昨年1年間を顧みますと我々の折念したとは程遠い1年だったと言わざるを得ません。国内にあつては打ち続く不況にあえぎ、政府の聖域なき構造改革は今のところ痛みのみが先行し、未だその効果が現れない内に、9月には一瞬にして数千名の貴い命が失われる



という驚愕の同時多発テロ事件がニューヨークで発生し、アメリカのみならず全世界を震え上がらせ、経済界にも大きな打撃を与えました。その影響も加わってわが国の経済は益々不況の度を深めつつあり、何時不況から脱出できるのか全く見当のつかない状態であります。倒産あるいはリストラのため完全失業者は増加の一途を辿り、10月には遂に54%というかつてない高いレベルに達し、今後更に増加する勢いにあります。

この不況を乗り越え明るい展望を開く道は誰もがよく認識しているように、従来から日本が誇りとしていた年功序列、終身雇用を核とする日本式経営が日本経済の活性化を阻害し、一方、技術の面では、外国のオリジナルな技術の上に新しい大量生産方式を開発し、経済を進展させるといふ従来の方式が、発展途上国の追い上げに会い、その道を塞がれた日本である。日本が21世紀に向かって繁栄を続ける道は、長い間日本のバックボ

ンとして身に染み着いた日本式経営並びに技術からの脱却を図り、独自の新しい経営並びに技術の確立を図るより方法はないと言えます。

さて20世紀における科学技術の進歩は、かつて人類が経験したことのない程素晴らしいものがあり、20世紀は科学技術の世紀と呼ばれています。お陰で多くの人類(特に日本人)は豊かな物質文明を享受できるようになりました。しかしその一面、資源を大量に消費し、自然破壊、地球温暖化、環境汚染など人類の存立さえ危うくする深刻な問題を惹起しました。21世紀はまずこの問題の解決を図らなければなりません。それにはまた新しい科学技術の発達が必要です。ただそのためだけでなく、21世紀における科学技術は、20世紀を越す速さで進歩すると思われ

ます。20世紀には、人類の夢でしかなかった月に人間が降り立つことが実現しました。その他半導体と集積回路の技術、コンピュータの出現、原子力の利用などその何れを取っても19世紀には想像もできなかったことです。同様に、今から21世紀の科学技術の発達を予測することは困難ですが、ここ数年の間に21世紀における科学技術の発達の具体的な方向付けは随分はつきりしてきたように思われます。特に上に述べたように、わが国の

焦眉の急である不況脱出の問題にも深く関わると思われまますので我々としては非常な関心があるわけです。

さて日本が現在の不況を脱出するためには、外国の模倣技術ではなく独自の技術を持たなければならぬと申しましたが、そのためには、少し迂遠かも知れませんが、基礎科学がしっかりしていなければなりません。平成13年3月、第2期科学技術基本計画が閣議決定され、今後5年間の重点課題として、次の4項目を挙げています。

環境、ナノテクノロジー・材料

これらの4分野のうち環境及び情報通信を除く2分野は、20世紀末に発見された基礎科学を基礎とする全くの新分野で、21世紀の科学技術の進歩をリードする中心的課題と思われまますので、専門家ではありませんが、勉強したところを纏めて年頭の読物としたいと存じます。

まずライフサイエンスの中でいま最も注目を集めているのは、ヒトゲノム(2重らせん構造を有するDNAの中における4種の塩基性分子の配列の模様)の全データが解読されたことで、今後これを利用して、難病の解明更に進んで遺伝子組換え治療やヒトゲノムを利用する創薬等の新しい手法を開発し、癌を始め多くの難病の克服に曙光が指してきた感が致します。

また人類に対する遺伝的影響で種々の物議を醸している遺伝子組換え技術即ちバイオテクノロジーの問題も同じ分野の研究でありま

す。また最近脚光を帯びている今一つの問題として再生医学があります。これはES細胞(はい性幹細胞)と呼ばれる細胞は、各種の臓器の機能を有する機能細胞に分化するいわば万能細胞と呼ぶにふさわしい細胞であることが判つてきました。しかもヒトの細胞にES細胞の機能を付与する方法が開発されたと報道されています。そうなる、予め自分用の各種臓器を造って置いて、悪くなった自分の臓器と取り替えることが可能で、しかも自分用ですから拒絶反応もありません。まだ先の話ですが現在の脳死移植に取って代わる可能性が有ります。いわば人間の部品交換が可能になり、不老不死の技術につながることにあります。勿論この問題についてはクローン人間と同様、人間の生命の尊厳に関する倫理問題があり、科学者は確たる倫理観を持つことが必要です。

以上医学におけるDNAないし分子レベルのお話をして参りました。この分野は医学におけるナノテクノロジーと呼んで差し支えありません。しかし本来的にはナノテクノロジーなる言葉は、工学分野における技術に関する言葉であります。ナノというのは長さの単

位で、10億分の1メートルのことを1ナノメートル(略称ナノ)と称するので。上述のDNAの2重らせんが10ナノで、1ナノになるとDNAの分子構造が見えてきます。即ちナノは物質の原子の大きさに対応します。我々は今日こんなに細かいナノの世界を観測する手段を持つているのです。走査型トンネル顕微鏡と原子間力顕微鏡がそれでありまます。前者は導電性の資料に、後者は絶縁性の資料に用いられます。これに探針を着けピエゾ素子で動かすことによつて、原子の一つ一つを観測しながら削つたり動かしたりすることが出来るようになりました。この方法で、今までにない分子構造を有する新しい物質を作り出す可能性が生まれてきました。しかし原子一つ一つを操作することは大変で、実用的ではありません。

さて、ナノの世界にアプローチする方法として3つの方法があります。その一つは上述の原子の一つ一つを動かす方法ですが、もの作りには今のところ実用的ではありませんので省略します。もの作りのためマクロの世界から段々とナノに向かつて進んで来たのが半導体の集積技術ですが、現在では100〜200ナノメートルの細かさで、

ナノの世界まではまだ距離があります。最後の方法は自己組織化法と呼ばれる方法です。この方法は、ある特定の機能を得るためには原

子や分子をどう配置する設計図(プログラム)を作り、あとは自動的に原子や分子が設計図通りに並ぶようにする方法です。この方法ですとプログラムでナノの世界をコントロールしながら大量にも作りが出来ます。(具体的には次に述べるカーボンナノチューブに対するCVD法参照)

さて、ナノの世界で現在最も注目を集めているのは、カーボンナノチューブであります。従来純粋な炭素の安定な形として、ダイヤモンド、グラファイト及びチャコールの3種類が知られていました。今から十数年前、フライレオンというサッカーボール状の構造を持つ炭素C60が、第4の形として発見されました。ところが第5の形として1991年カーボンナノチューブ(以下略してナノチューブと呼ぶ)が発見されたのです。発見者はNECの主任研究員飯島澄男博士です。ナノチューブは直径1〜20ナノメートルの円筒形状の炭素繊維で、炭素原子を六角形

の金網に配置しそれを丸めた形になっています。この素材を用いると鉄の10倍も強く重さは1/10、寿命は10倍という画期的な材料が作れます。実用化のためにはナノチューブを大量に作る必要がありますが、今日ではCVD法(化学的気相成長法)で大量に作れるようになりました。しかし今のところなおコストに問題があります

子や分子をどう配置する設計図(プログラム)を作り、あとは自動的に原子や分子が設計図通りに並ぶようにする方法です。この方法ですとプログラムでナノの世界をコントロールしながら大量にも作りが出来ます。(具体的には次に述べるカーボンナノチューブに対するCVD法参照)

迎春

二〇〇二年一月一日

京都大学

電気関係教室

教官一同

フジテック株式会社

取締役社長 大谷 謙治

ヤール株式会社

松下電器産業 誌

日新電機株式会社

取締役相談役 安井 貞三

が、今後10年以内の内に解決され
ると期待されています。

その他の応用としては、磁気記
憶素子を始め各種極微電子素子へ
の応用、水素で動く燃料電池には
欠かせない改質器（ガソリンガス
や天然ガスなどから水素リッチな
ガスを作る装置）や水素吸蔵装置
（ペットボトルボンベ一本で電池
自動車500キロ走れる水素を吸
蔵）への応用、液晶に続く次世代
薄型ディスプレイの実現などが考
えられています。これらは何れ
も可能性の確証がある程度得てい
るもので、ナノチューブは無限の
可能性を秘めた夢の材料と言われ
ています。21世紀は炭素の時代と
いうのも謂れなしとしません。
カーボンナノチューブ以外のナ
ノテクノロジーの世界の研究テ
ーマは、例えば量子コンピュータ、
1原子（あるいは分子）メモリー、
DNA電子回路、バイオコンピュ
ータなど、今のところは夢物語に
近い構想も含めて21世紀の科学技
術の進歩に掛ける期待は限りがあ
りません。
少し長くなり過ぎました。年頭
のご挨拶と初夢の物語を終わりと
いと存じます。

大学の動向

長尾 真 総長 再選なる

長尾 真 総長（昭34年卒）の任

期満了（平成13年12月15日）に
伴う次期総長の選考が9月29日
（土）開催の臨時評議会において
行われ長尾 真 総長が再選され
ました。任期は平成15年12月15日
まで。（京大広報562号より）

国際融合創造センター
オフィスが開設

平成13年4月に発足した国際融
合創造センターは工学部4号館内に
研究室などが整備されました。セ
ンタ長には松重 和美 電子物性工
学専攻教授（推薦）が就任された
ほか、藤田 静雄 教授（昭53年卒）、
白藤 立助 教授（平2修卒）が就
任されています。（京大広報561号
より）

教室だより

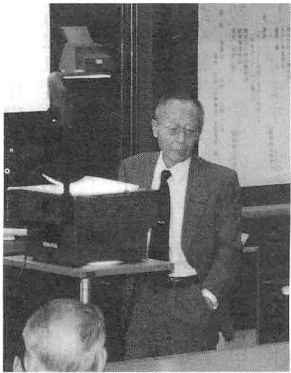
電気系教室懇話会報告

平成13年度の電気系教室懇話会
は10月26日（金）行われた。第一
部の講演会は、3人の講演者をお
招きし、午後3時より電気総合館
中講義室において、約110名の参加
のもとに開催された。

北野教授（電子物性工学専攻長）
の司会のもとに、石川電気電子工
学科長の挨拶があった。同時テロ、

狂牛病などに象徴される混乱の時
代に、京大も国立大学から独立行
政法人へのシステム変化が検討さ
れていること、また、電気系教室
は2年後には桂キャンパスへの移
動が予定されており、100年続いた
吉田キャンパスでの歴史に一応の
区切りを迎えることが報告された。

最初の講演は、西川 禎一 先生
（昭和30年卒。名誉教授。大阪工
業大学学長）による「エネルギー
I/環境とIT」であった。学部
長時代にエネルギー科学研究科の
設立にかかわられたこともあり、
先生のご専門であったエネルギー
I、環境問題と最近の情報技術の
発展との関連について、広い立場
からの見直しをお話しいただい
た。インターネットの利用者が前
年度比74%増、携帯電話の利用者
が二人に一人（前年比19%増）と
普及してきたが、さらに光ファイ
バーから電力配電線に信号を重畳
して各家庭に送る高速通信など、
さまざまなネットワークのプロ
ドバンド化が研究されている。こ
のようなIT化が整備されてくる
と、政府、自治体、企業、個人の



相互間で、情報のみならず、申請、
決済、商取引、買い物などが電子
的に実現できることになり、電子
政府、電子商取引、在宅勤務など
が実現できる。そうなれば、交通、
物流などにおいて膨大なエネルギー
の削減ができ、環境負荷の軽減
にも役立つはずであり、e e c o
m m e r c e (e-commerce maximizing
energy saving and environment
benefit) という概念を提唱された。最
後に、このような社会を実現する
ための今後の課題を述べられ、結
局のところ、政府、財界、国民が
これらのことを真剣にやるかどう
かにかかっているとお話を締めく
くられた。

2番目の講演は、森田憲一氏
（昭和45年卒。株日立製作所大み
か事業所長）による「高速道路交
通システム (Intelligent Transport
Systems)」であった。現代の車
社会で解決すべき課題として交通
渋滞、環境悪化、交通事故などが
あるが、これらを解決する方策と
して、車輛の制御あるいはカーナ
ビなどの車輛情報のみならず、車
輛自体を情報通信のプラットフォーム
化する新しい車輛の試みなど、
さまざまな情報通信技術を活
用した高速道路システム (ITS)
の全体像と、それらに対する日立
の取り組みについてお話しした
いた。中でも、高速道路における
交通渋滞要因の30%を占める料金

迎春

二〇〇二年一月一日

鐵 S C C

代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 鐵

代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学 鐵

理事長 松尾 泰

高周波熱錬 鐵

代表取締役社長 大谷 茂久

鐵 村田製作所

代表取締役社長 村田 泰隆

所部の問題を解決するため、最近、試験的に実用が始まった「自動料金收受システム・ETC」の開発について詳しく述べられた。車が時速60キロのスピードで料金所を通過できるようにするためには、20m間隔のアンテナ間で情報の検知、送信をするので、1秒間ですべてを処理しなければならない。ところが、車の大きさの違いによる反射波、ETCと一般車の共用レーン、車の途中バック、レジャーボート、弁当ガラや枯れ葉のセーサーへの付着、暴走族などなど、実にさまざまな予期せぬ問題が生じ、それらを一つ一つ技術的に解決していかれた苦心談は、非常に興味深いものであった。最後に、空気と水と安全、さらに情報はタダという今までの考え方ではダメで、情報に対する対価を認めることが重要であることを強調された。

最後は、荒井晴市氏（昭和46年卒。㈱村田製作所野洲事業所長）より「モノづくり会社に求められること（部品メーカーの立場で）」と題してお話いただいた。最近の経済状態から製造業は苦しい状態にあり、エレクトロニクス業界でも製品が短ライフ化し、不良在庫対策が死活問題であることを指摘された。その中で、モノ作りがメーカーの原点であることを銘記し、モノ作りにこだわり続けること、さらに、独自性を追及するた

めセラミックスにこだわり、材料、加工、設計、および生産の各技術を統合して、ICと共存できる部品を作ることを目指すという村田の方針を述べられ、さまざまな製品とそれらの応用分野を紹介された。最後に、具体的な開発製品の一例として、ご自身が開発にかかわられた、圧電セラミックスを用いた球形スピーカー、球形ツイーターの紹介と、実物をご持参下さったの実演があった。従来のダイナミック型スピーカーと比べ、周波数特性が優れているのはもちろん、速度、変位とも追従性がよく、このことは、人間の聴覚がもつ、音の大きさより時間差に敏感で、遅れた音は認識できないという特性に適した優れた点であり、この製品がこだわりの結晶であることを強調された。講義室には時ならぬ音楽と、教会の鐘の音、ガラスのクラッシュ音まで響きわたり、その音色のすばらしさをお聞かせいただいたが、残念ながら現在のところ、一般向けにはまだ市販されていないとのことであった。

お三方のご講演は、特に若い学生諸君にとっては、身近な近未来への展望として、興味深く、有意義なものであったと信ずる。


6時より会場を吉田（旧教養）生協食堂に移し、第二部の懇親会がもたれた。講師の方々や諸先輩、さらに講演会を上回る学生諸君の参加のもと、小川名誉教授のご発

会員寄稿

ODA 体験記

倉光 正己（昭38年卒）記

木本 巖（昭28年卒）

<p>迎 春</p> <p>二〇〇二年一月一日</p>	<p> GS</p> <p>日本電池</p> <p>取締役社長 田中 千秋</p>	<p>畿 電 気 評 論 社</p> <p>財団法人</p> <p>近畿地方発明センター</p> <p>理事長 近藤 文治</p>	<p>財団法人</p> <p>応用科学研究所</p>	<p>(株) 田中プリント</p>
-----------------------------	--	---	-----------------------------------	--------------------------

の体験を紹介させていた。よく知られている通り、日本は世界一のODA（政府開発援助）大国である。近年、頭打ちの傾向にあるとはいえ、アメリカ、ドイツ、フランスなどを上回り、99年度、その総額は約150億ドルに達する。もっともこれは総額での話、GNPや人口当たりで見るとスウェーデン、オランダ、フランスの半分から数分の一に過ぎない。ODA総額の約20%が技術協力支援にあてられる。JICAは外務省所管の政府関係機関でODAのうち「人を通じた協力」である技術協力を担い、その一環として研修員受入れ事業がある。

この事業では年間約7千人の研修員を開発途上国から受け入れている。研修コースは対象国のニーズと受入れ側の態勢を考え、JICAが企画、編成する。JICAに格別の技術力の蓄積がある訳ではないので、研修自体は外部の研究教育機関や企業などに委託される。さらに講義、実習、見学などは、それぞれの分野の専門家や工場、事業所などに委嘱される。コースのテーマは多岐に亘り、やり方も多様なので、以下私が担当したケースによって説明させていただく。

当地、名古屋の研修センターでは土地柄、産業技術の移転を目的とするコースが多い。デジタル通信、ファイバー線路など通信技術、電力設備保守、小水力発電、

火力発電所の公害防止など電力関連技術、金属表面加工、溶接、セラミックなど加工技術、品質管理、安全管理、省エネ、環境など管理技術などである。最近では教育、環境、法制、地域開発など社会的インフラに関するものも増え、とりとめがないほど広範囲に亘る。委託先はN T T 鈴鹿研修センター、国際環境技術移転研究センター、愛知工研協会、愛知工業高校、中部電力などである。研修期間は通常2〜3ヶ月、この中に講義、実習、見学、研修旅行、成果報告などが詰め込まれる。対象国から推薦された候補者の中から一国1〜2名程度、計15名前後のグループが編成される。アジア、中近東、中南米、さらに冷戦終結後は中東欧など旧共産圏も加わり、グループは人種、言語、宗教、風俗の坩堝と化する。

世界の人口は約80億人、その8割は開発途上国に集中している。一口に援助対象国といっても単純ではない。平均所得は低くてもIT大国、世界の工場などと呼ばれるまでに力をつけたインド、中国、見事離陸に成功したマレーシア、タイ、インドネシアなど新興工業国。ブラジルのように羨ましいほど潤沢な資源に恵まれた国もあれば、教育制度や社会的インフラも整っていないが、長年の圧政で荒廃し経済の再興に懸命の中東欧諸国もある。さらには援助なしでは最低水準の国民生活の維持さえ難しい、いわゆる極貧国もある。ス

ワジランドなど不覚にも国名を初めて聞く国もあれば、ソロモン群島(ガダルカナル島)など国名に苦い懐かしさおぼえたりする。研修員の職業も企業の技術者、研究機関の研究者、お役人など様々。欧米での留学経験の持ち主も居れば、はじめての外国訪問という者も少なくない。研修員の旅費、滞在費、日当など滞在中の経費は全て日本政府から支給される。

ところで研修コーディネーターは何をするのか。正式の身分はJ I C E (日本国際協力センター)の臨時研修監理員である。J I C A と紛らわしいが、J I C E は J I C A の研修サービス業務を請け負う、いわば子会社である。研修員が勇躍来日してから、めでたく修了証書を手にして帰国するまで、終始、研修員に付き添い、講義、実習、見学の通訳をはじめ、実施場所への移動、旅行の手配、その他研修員の生活や身の回りに生じるよろずの問題、要望、苦情に対応し、研修の円滑な進行を図るのがコーディネーターの役目である。権限というほどのものは何もない。しかし研修員との接触時間は他の誰よりも長く、日本での印象を左右するほど責任は重大である。必須の要件は公用語たる英語に堪能なこと。同僚の多くは英語専攻の若い才媛達である。「敵性英語」時代に教育を受けた者としては、年の功といささかの技術や実務での経験を評価願うほかならぬ。最近では特定の地域や国を対象とするコースが増え、その地域や国の言語が用いられることもある。この場合稀少言語の価値は高く破格の報酬が支払われる。

英語といっても発音には夫々に母国語との干渉があり、国語の欄にピジン・イングリッシュと書いてある国もあるから強い訛りに慣れるのに一週間以上かかることもある。講義、実習のテキストや梗概は直前に渡されることが多く、新しく担当するコースでは内容と専門用語の予習が大変である。電機や機械関係なら何とかも、化学、医学分野などは苦手というほかない。自分も海外でコミユニケーションがとれず、泣きたくなるくらい辛かった経験は山ほどある。技術的背景のない同僚たちが奮闘しているのを見ると、ここは老躯に鞭打って頑張るしかない。一方、研修員の目には、日本のような国で博士の講師が英語の通訳を必要とするのは、やや奇異に映るようである。大して必要もない英会話より、大切な専門の勉強の方が大事なのだと説明することにしてはいる。最近では、若い世代をはじめ英語で講義をしていただけの講師が目に見えて多くなってきた。通訳の手間が省けるし、何より貴重な研修時間を有効に活かせるのが有難い。しかし、質疑応答が纏れて紛糾することもあるから油断するわけにはいかない。

長い海外生活で食事は常に大問題である。楽しみと活力の源泉であるというだけではない。担当した研修員の約20%はイスラム教徒で豚肉は絶対に口にしない。牛肉や鶏肉も特別の宗教的処置をしたものしか摂れない。研修センターでは証明書付の輸入肉を提供してくるが、市中での入手が難しくメニューが限定される。見学先で食事を用意していただける場合は予め連絡しておくが、それでもスラブに刻んだハムが入っていたりしてハツとすることがある。肉食主義者も結構居る。外人客が多いホテルでも菜食主義者向けのメニューは少ないから彼らも不便する。

研修センターでは決められた費用の食事が提供される。それでも施設によって評判に大きな差があり、不満の種になりがちである。すぐにはどう仕様もないことだが、食べ物の恨みは国の印象を左右しかねないから苦情の処理には慎重を要する。それにしてもグロバル・ブランドのハンバーガー・ショップの人氣は抜群である。出先で昼食となるとまず間違いない。Mのマークの在りかを聞いてくる。予め調べておいた場所を教えるとホッとした顔で出かけるが、毎日となるといささか淋しい気がする。以前は食費を極端に削って栄養失調に陥るケースもあった。給費を貯めて土産物を買ったり、外貨で持ち帰ったりするためである。我々も乏しい外貨でボールペンやネクタイを何十と買って帰ってきた時代があったと身につまされるが、顔色をよく観察して健康状態に注意していないと面倒なことになる。面倒なことになる。面倒なことになる。

私が担当した中では、サウジ・アラビアからの研修員が最も厳格に戒律を守るイスラム教徒であった。一日5回のお祈りを厳守するので、このため講義中を中断することもあった。移動中も時間になると地下鉄のプラットホームや駐車場の隅にカーペットを敷き、西に向かってお祈りを捧げる。その都度、真剣に方向を尋ねるから磁石を携帯する事にした。面倒ではあったが帰国してから大変丁寧な礼状をいただいた。

さて大切な国費を費やし、J I C A はじめ関係者、協力者の方々の辛苦の結晶であるこれらの技術研修の成果はどうであろうか。研修の目的は1. 技術の移転 2. 日本よき理解者を育てることである。洛友会の皆様なら直感されると思うが、これだけ背景もニーズも水準も異なる人達に対する2〜3ヶ月のグループ研修によって、移転、定着がどれだけ期待できるか甚だ疑問である。年間約7千人といっても国別、分野別で見ればほんのわずかである。金なし、人なし、技術なしといった「ないない症候群」から解き放つにはあまりに非力といわねばならない。

近年、企業の生産基地の海外移転がめざましい。企業はそれぞれ固有のニーズに基づき相手や場所を選び、技術移転の成否に存廃を賭けて海外に進出する。この場合、移転する側も受ける側も明確で具体的な目標があり、良かれ悪しか

れ明快な結果がえられる。その中
で行われる研修と比べると、効率、
波及効果、定着度の差は歴然とし
ているように思われる。

しかし研修員が日本での研修を
通じて得るのは技術知識だけでは
ない。日本の社会、市民生活、特
に生産や研究の現場に接してうけ
る刺激は我々の想像以上に大き
い。整然とした職場、真剣な改善
への意欲、全員参加の姿勢など、
かねがね聞いていたことを自分の
目で見て確かめる意義は大きい。
街の清潔さ、治安の良さ、約束や
時間を守る誠実さ、親切なサービ
スなどを目から鱗が落ちるような
驚きで受け止めているのを見ると
こちらが面映くなるほどである。
日本の技術の発展の経過や、その
基盤を学び取り、たとえ母国の現
状がかけ離れて困難なものであつ
ても、それに立ち向かう勇氣を持
つのに役立ててくれれば十分な成
果といわねばならないだろう。

私の接した研修員は約50ヶ国か
らの200人あまり。夫々に技術を通
じて母国の将来を担うことが期待
されている人達である。これら研
修員たちが持ち帰った収穫を母国
で広く敷衍し波紋を拡げて産業の
発展に役立てることを心から願っ
ている。この8年の間に彼らとの
接触を通じて私が得た刺激や知識
は、私にとってかけがえのない財
産であり、これからも何かのお役
に立てることが出来ればと思っ
ている。

日本の祭りと原子力の心

宮越 政通 (昭41年卒)

昨今、日本も、電力会社もメー
カーも構造改革に出遅れ、IT革
命に翻弄され、自分を見失おうと
していますが、21世紀に入った今
変えるべきものと変わらないもの
の見極めが大切です。変えるべき
ものは当代の学者や識者、芸人が
声高に叫んでいます。変わらない
ものは生まれ育った風土と歴史、
つまりは文化であり、大きくは日
本であり細かくは各地土着の特性
だと思えます。変わらないものを
見る上で田舎の祭りは有効なもの
だと思っています。今から紹介す
る北陸地方の能登半島の祭りとい
皆さんの祭りと重ねあわせて考え
てください。

昭和40年頃までは能登半島にも
人々が混み合つて住んでおり、盆
や正月、大漁や祭りなどの非日常
の楽しみを先に見て、毎日を一生
懸命耐えていた人々が村や町を作
っていました。縄文時代以来能登
半島には多くの人がずっと住み続
けていました。自分の村や町の祭
りに生まれながらにして参加し、
役割と協業で行う神輿や奉燈の担
ぎ、曳山の引き回し、その準備か
らあとじまいまで稽古と鍛錬と伝
承により、日常の仕事にも必要な
技量と精神力、競う心と和のここ
ろを高めます。祭りは体力も仕事
の能力も村や町のみんなにわかっ

てしまう舞台なのです。祭り王国
能登半島には、羽咋のおいで祭り、
石崎の奉燈祭(ほうとうまつり)、
志賀のやっちゃ祭り、輪島の名舟大
祭、富来のくじり祭り、中島のお
熊甲祭り、能登の国司が100年以上
も前に定めた平安時代から続く能
登最大の祭りである七尾の青柏祭
(せいはいくさい)、宇出津のあばれ
祭りなどがあります。

宇出津のあばれ祭りは江戸時代
中ごろ疫病を祓うため京都の八坂
神社に頼んだのが事の始まりとさ
れ、奥能登の能登町宇出津の町と
市街を流れる川と山手の八坂神社
などで7月7日と8日に行なわれ
る。練り歩く40基ばかりの綺麗で
高さ7メートルにもなる大きなき
りこ、火の中水の中を暴れまくる
勇壮で危険なあばれ神輿が出る夜
中まで続く祭りだ。10人ほどの子
供たちがきりこに乗り町内の男と
元気のよい女の人が40〜50人で力
を合せて担ぎ重さに耐えて笛、
太鼓、掛け声とともに練り歩く。
身軽な男が裸で最も危険な神輿の
上に乗り裸の若者が20〜30人ばか
り神輿を担ぐ、海や川へ来ると
神輿だけを川へ叩き落とす。担ぎ手
も川へ飛び込み神輿をひっくり返
したり水に突っ込んだりぶつつけ
たりさんざん攻撃する、皆ずぶぬ
れになり泥水まみれになって上が
ってきた頃には神輿の一部は壊れ
ている、ものすごいエネルギーの
発散だ。次には大松明を焚いた川

に神輿とともに飛び込み松明に神
輿をぶつけて降りしきる火の粉
で水を男達にかけて火傷をしない
ようにしている。やと川から上
がってきた八坂神社の大焚き火に
神輿を投げ入れ転がして痛みつけ
引き出しては担ぎまわる、英雄に
なる技と度胸の命がけの男はまだ
神輿に上っている、この半狂乱を
何十回も遣るうちに神輿は焦げて
くるしばらばらに壊れてしま
う、男どもは疲労困憊、最後は神
社の拜殿になだれ込んで宮司のお
はらいと祈りで終わりと成る、神
輿の担ぎ棒が折れたり救急車で運
んでいく負傷者がでたり予定の時
間をはるかに過ぎて夜中になつて
しまった。町内総力あげて老若男
女がそれぞれの持ち場で技と力、
気合と胆力が見事に組織化され、
総合化される。

日本の島に文化が伝わり、それ
を後世に伝えるようになった古い
時代から、日本人はもの作りに励
む匠の心を大切にしてきました。
一所懸命は昔から長所とされ、仕
事で現場を大切にする現場主義、
仲間と力を合せて成果を挙げよ
うとする集団主義、そして完璧主
義や清潔好きなどの美点により、
日本のこれまでの成功がもたらさ
れてきています。これらは世界に
向かって、将来も価値を発揮し
続ける本物の特質です。これらは
また原子力の安全文化を推進し、

原子力発電を介して日本と世界の
エネルギー需給安定を支える源だ
と考えます。私は電力会社の技術
者として能登半島にある志賀原子
力発電所の建設に携わり、又発電
の現場を守ってきました。"原子
力のセーフティ・カルチャアとは
原子力プラントの安全を担う活動
に従事するすべての人々の献身と
責任感である"と云う定義翻訳が
現場人としてわかり易い。
過去が咲いている今、未来の蕾で
一杯な今、とある人が言いました。
損して得とするように、大きな努力で
小さな成果を目指し、小さな成果に
耐えるよう気持ちを切換え、生き方
を安定させてはどうだろう。

私には子供が2人います。4歳
の長男と9ヶ月になる次男です。
長男は今年の11月から幼稚園に行
くことになりました。
11月という中途半端な時期に入
園するのは、私の転勤に伴う引越
しが理由です。引越し前に住んで
いたところでは、幼稚園は2年だ
ったのですが、現在住んでいると
ころから通園できる幼稚園はほと
んど3年です。もちろん、来年の
4月に入園させることもできたの
ですが、近所の同い年の子がみん
な幼稚園に通っていることもあり、
少しでも早い方が慣れるのも

幼稚園

渡辺 浩 (平5年卒)

過去が咲いている今、未来の蕾で
一杯な今、とある人が言いました。
損して得とするように、大きな努力で
小さな成果を目指し、小さな成果に
耐えるよう気持ちを切換え、生き方
を安定させてはどうだろう。

早いだろうと判断し、入園させることにしました。

さて、幼稚園生活が始まると、長男は毎朝幼稚園にいきたくないと泣くようになりました。幼稚園に通い始めたときは、行きたがらない子が多いとは聞いていたのですが、やはり少し心配で、なぜ行きたくないのかを長男に尋ねてみました。すると、幼稚園でやって

いる、あいさつや歌等が、自分一人だけ上手にできない、特に文字を書く練習をする時間がきらいだと言っています。先生に怒られるのかと聞くとそういう訳ではないと答えます。他の子達は何ヶ月も多く練習しているのだから仕方ない、すぐに上手になるから気にしなくてもよい、と説得しましたが、自分一人できないのが我慢できないのかなかなか納得しません。そこで、早く上手になるように家でも練習をしようということになりました。

怒られ、泣きながら習字の練習をしたこと、そして怒られることを無理不尽に感じていたことを思い出しました。また、大人も昔は子供だったのになぜ子供の気持ちで理解できないのだろうか、と疑問に思っていたことも思い出しました。そして、子供のころは、親や大人に対していろいろのことを考えていたはずなのに、その多くが今思い出せなくなっていることに気がつき、少しさみしくなりました。

長男はどんな気持ちで文字の練習をしていたのでしょうか。先日、幼稚園で遠足があり、動物園に行ったことがとても楽しかったようです。また幼稚園にも徐々に慣れてきたのか、朝泣くことも少なくなりました。

次男は今年の3月に生まれました。当時私は仕事の関係で岡山市内の社宅に住んでいたのですが、出産は、私の実家のある山口市内の病院ですることにしていたので、予定日の1ヶ月前から妻と長男は私の実家へ帰っていました。岡山市から山口市までは車で4時間程度かかりました。そのころの長男は、お母さんが大好きでいつも一緒にいました。妻が一人で買い物などに行き、私と2人で留守番をしていると、すぐに泣き出してしまいました。寝るときには妻が必ず横にいました。ところが次男の出産後は、母親は1週間程入院しなければなりません。その間、長男は祖父母

と一緒に私の実家にいなければなりません。私は長男が一人ではいられるか、祖父母の手をやかさないかが、次男が無事生まれるかどうかと同じくらい心配でした。

出産予定日より2日遅れて生まれそうとの連絡が入りました。その日は土曜日で休日だったので、急いで実家に帰ったのですが、妻が病院へ行ったのは日曜の深夜となりました。長男のときの病院に行ってから20時間という経験があったので、一眠りしてから病院へ行こうと考え、床に就いて、うとうとしていたところへ無事出産との連絡が入りました。

翌日長男を連れて病院へ行く

と、長男は、弟をあまり見ようとはしませんでした。母を自分から奪ってしまう弟の存在を認めたくなかったのかもしれません。そして、意外なことに妻と別れて実家に帰るとき、長男は泣きませんでした。しかし、どこかいつもの元気がなかったように思います。長男を実家において岡山にもどることができず、火曜日は実家から新幹線で通勤することになりました。その夜長男に明日から妻が退院するまでは、祖父母と一緒に寝るよーうにと言い聞かせたのですが、長男はいつも寝ている部屋で一人で寝ると言いました。私は長男の主張をあえて否定せず、もしさみし

かったら祖父母と一緒に寝るようにと言いました。

翌日、実家から出勤し、社宅へ帰りました。帰宅はちよつと遅くなり、実家へ電話をしてみるともう長男は寝ていました。様子を聞くと、始めは一人で寝ると言っていたが、しばらくして祖父母の部屋にやってきて、一緒に寝ている、泣かずにいい子だった、とのこと、少しほつとしました。

次の週末、実家に帰ってみると、長男は確かにちよつと大人になっていました。

その日、妻が無事退院したので、私は安心して岡山へ戻りました。しかし、その後実家では風邪が大流行し、風邪にかかった長男は、生まれたばかりの次男にうつしてはいけないということで、妻と次男とは隔離されてしまい、妻の入院中以上にさびしい思いをしたという話を後になって聞きました。

最近、次男は掴り立ちを覚え、手に届くものを散らかして回りまです。これから更に手がかるようになるでしょう。子育ては大変だと実感する反面、もう一人くらいいてもいいかなと思う今日このごろです。

同窓会だより

昭十会臨時大会報告

昭和十年卒業の私共は今日尚13名の生存者が居て、非常に健康で

幸せな毎日を過しています。が年齢既に90歳に達し、近年残念な1〜2名の方々が毎年不幸にも他界する傾向にあります。昨平成12年に卒業65周年記念会を催し盛大で幸せな時間を過しました。が本年も早々に又2名の方が逝去されましたので、残る13名の方々に臨時の会合を申入れ、去る10月10日に京都市内のホテルで一年半振りに顔を合せ非常に楽しい時間を過すことが出来ました。



長い人生も生老病死、苦の果て所詮生涯を閉じることとなりませめて年一回は顔を合せて、お互いの生活状況を話し合い人生を終え度く、明年は私共の入学75周年記念の年となりますので、是非その記念会を開催し、更にお互の多幸をお祝い致し度所存です。本日は遠路の方が4名も見え、

例年通り盛大に夫々の人生を語り
合い約3時間を幸せに過すことが
出来て、一同満足の上次回の会合
を期待して解散致しました。

出席者名(敬称略)

天野、同令嬢、大曲、神谷、小寺、
同夫人、清水、田村、中堀、同夫
人、林、和田、

和田 壽太郎(昭10年卒) 記

卒業60年記念洛友師走会

昭和16年12月、開戦と同時に卒
業した吾々は、今年丁度60年を迎
えた。その当時謝恩会を開いた京都
ホテルに、10月10日に17名が集ま
った。先ず幽明境を異にした恩師
の方々、友人達に黙祷を捧げ、そ
の後食事を楽しみつつ、夫人、未
亡人を交えて、和やかな歓談の時
を過ごした。



今まで28回にわたって続けて来た
定期的な会合はこれで一応終るこ
ととし、関東の二木会、関西の二
水会は、どちらも続けて行こうと
いうことになった。

出席者名(敬称略)

長瀬夫妻、西村夫妻、山田夫妻、山
本夫妻、竹屋夫妻、甲斐、加藤、須
藤、立石、野村、安藤静、西村慶子
竹屋 芳夫(昭16年卒) 記

昭和24年卒クラス会報告

10月24日、舞子ピラ神戸に集合、
明石大橋のすぐそばなので、屋上
から明石大橋に沈む夕日を見てか
ら、23人で宴会を始めた。

今回は生駒さんが左手骨折、野村
夫人が転んで珍しく欠席、常連の
中野、近江が欠席の他故障者が多
かった。浜田夫妻が、白内症の手
術等老人性の問題が多かった。但
しお二人とも元氣。小生などは目
が良くなって「月の兎の模様」が
見えるようになった。遠視の眼鏡
が合わなくなって眼鏡を外した方
が良く見えるようになった。

井土から宗教の難しい話、飯田
の御陵の話など電気と関係のない
話が多くなった。松村がテロ当日
ワシントンにおり翌日貿易センタ
ービルに行く予定だったとのこと
と、まかり間違えば・・・
25日は朝早くから明石海峡大橋
を渡り淡路島を縦断して、更に鳴
門大橋を渡って鳴門に入り、大塚

国際美術館をかなりの時間を掛け
て見学した。世界の名画を写真に
撮って陶板に焼きつけたもので、
千点以上を集めてある。

昼食後観潮船で鳴門海峡に出て
「渦」を見た。天気は曇一つない
上天気だったが、生憎半月で最悪
の条件だった。これは月暦を良く
調べておかなければならない。

帰りは逆で2大橋を渡り淡路島
を縦断して、三宮と新神戸で解散
した。



太田 實(昭24年卒) 記

洛友41年会・35周年の集い

昭和41年電気系教室卒業生は卒
業後35周年の集いを開催した。近
藤先生、坂井先生にも参加いただ
き、総勢57名が10月6日京都・高
雄で再会を楽しんだ。今回は趣向

しむことが出来た。話は尽きなか
ったが、両恩師のお元氣な様子に
勇気付けられ、舞妓さんの踊りに
目を奪われ、最後は肩を組んでの
琵琶湖周航歌、三高寮歌の合唱
で幕を閉じ、?年後の再会を約束
した。(次回は3年後と5年後で
意見が分かれ、次回幹事預かりと
なった。)

翌日は、海外出張へ急ぐ人、ゴ
ルフ組みは瀬田カントリークラブ
へ、散策組みはお寺巡りへと思い
思いに再会の余韻を楽しんだ。又
の再会を楽しみにして、報告を終
える。

荒木光彦(昭41年卒) 記

支部だより

関西支部家族見学会報告

関西支部では恒例の家族見学会
を10月21日(日)に開催しました。
今年の行き先は、4月に大阪にオ
ープンしたばかりのユニバーサ
ル・スタジオ・ジャパン(USJ)
です。本部から大嶋副会長にご参
加いただいたのを始め、総勢21名
と最近の関西支部家族見学会とし
ては最大級の規模となりました。

例年の家族見学会では京都と大
阪に集合して、バスあるいは電車
での移動となるのが通例ですが、
今年はUSJがJR大阪駅から電
車で約10分と非常に便利な場所に
位置していることもあり、現地集





合ということになりました。当日は朝8時から受付を開始し、皆さんにUSJの入場券を受け取っていただいた後、まずは園内に入場していただき、パーティの開始時間(9時)まで園内を自由に行動していただきました。

USJでは人気アトラクション入場に60分待ち、80分待ちといった長蛇の列が出来るため、エクスプレスパス(優先入場券)を各アトラクションで配布しています。会員の皆さんもパーティ開始までの時間を有効に活用されて各自のお好きなアトラクションのエクスプレスパスを手に入れるべく園内を散策されていきました。

エクスプレスパスも手に入れたところでもまた集合し、パーティの開始です。パーティはSTAGE 33と呼ばれる映画のプロダクションスタジオを再現した屋内イベントホールで行われました。会場ではビュッフェ形式で食事

が用意され、恩師の先生方や同窓の皆様と和気あいあいとご歓談いただきました。少し遅めの朝食をいただきました。お腹もふくれたところで、伊藤支部長、大嶋副会長にご挨拶をいただき、事務局からUSJの簡単な案内の後、パーティは解散となり、皆さんにはパーティ会場を後にして自由に園内をお楽しみいただきました。

解散の後には、皆さん、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」や「ジュラシック・パーク」、「ジョーズ」等、懐かしい映画の名場面を再現した数々のアトラクションを思い思いに楽しめました。アトラクションによっては体中ずぶ濡れになるものもありましたが、皆、童心に帰って楽しめました。

USJではアトラクションだけではなく園内全てがブロック毎に1930年代のニューヨークやアメリカ西部開拓時代の町並み等が再現されており、まさに自分がハリウッドスターになって映画のシーンの中にいるような興奮を味わうことができました。

夜8時からはUSJ中央に位置するラグーンで映画の名場面を再現した光と水と花火のイリュージョンが行われ、その迫力に感動した後、楽しい一日の思い出を残して今年の家族見学会の一日も終了となりました。

高野 登志裕(昭63年卒)記

関西支部ゴルフ競技会報告

第76回関西支部ゴルフ競技会が平成13年9月30日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。当日は小雨が降るあいにくの天気の中、昭和30年卒の福川幸勇氏を筆頭に、合計25名(うちシニアの部2名)が競技に汗を流しました。

結果は次の通りです。

- (一般の部)
- 優勝 橋本 進一朗(昭40年卒)
 - 2位 内田 頼利(昭37年卒)
 - 3位 石川 順三(昭43年卒)
- (シニアの部)
- 優勝 伊藤 俊一(昭34年卒)
 - 2位 福川 幸勇(昭30年卒)

《第77回競技会のご案内》

平成14年5月26日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース
多数のご参加をお待ちしております。

《連絡先》

- 関西電力(株) 八木 誠(昭47年卒)
一木将人(平7年卒)
06・7501・0356
一木 将人(平7年卒) 記

中部支部家族同歩秋の例会 世界遺産「白川郷」見学

11月10日(土)は中部支部秋の例会です。一昨年、東海北陸道が庄川まで延びたので世界遺産「白

川郷」の日帰り見学が可能になりました。東海北陸道も全通までありと飛騨清見(五ヶ山(40km弱))を残すのみ、白川郷まで後僅かです。が、かえって全通すると便利になりすぎ大混雑が予想される。今年はチャンスでないでしょうか。

時季は紅葉の真っ盛り、素晴らしい行楽会となりました。参加者は18名と少し淋しいがそこは常連ばかり、早くも話が弾みます。東海北陸道は今回は3回目、これまで一宮インターに入るまで渋滞に悩まされていましたが、今年は10月下旬、名古屋高速が名神小牧インターに接続されたので東海北陸道が格段に近くなりました。出発して3分、もう名古屋高速に乗ります。名古屋城を左手に見ながらバスは快適に飛ばします。僅か30分で小牧城を右手に見たら、もう名神小牧インターです。東海北陸・一宮ジャンクションに入ったのが9時、先回・先々回に比べて30分以上の短縮です。此処から最初のトイレ休憩地(ヶ丘サービスエリア(美並ICを過ぎてすぐ))まで30分、美濃ICからは対面交通ですが渋滞も無く、長良川の清流を左右に見ながら、アツと言います。

ガイドの説明「此処美並は日本の人口中心地です。日本人の系図、又おにぎりのルーツで有名です。」白鳥ICと過ぎ、ひるがの高原は全山

紅葉です(実際は黄葉、残念ながらや、盛りを過ぎています)。

ガイドの説明「この辺の最高峰は大日岳、大日岳が分水嶺で庄川は日本海に注ぎます。高原は酪農が盛ん、又東海北陸道の開通で冬はスキー場が賑わいます。又素晴らしい水芭蕉の群生が見られます。」大和町には6年前当支部で見学した「古今伝授の里」があり、白鳥ICからは将来九頭竜、福井へ通じるであろう高速道路が見えましたが、これも小泉内閣の「高速道見直し」に引っかかるかも知れません。庄川ICを降り、国道156線に入るとすぐ最初の見学地「庄川の里」です。

昔は此処まで白川村、今は分かれて庄川村ですが合掌造りの建物は白川村も全く同じ、白川村の世界遺産登録は其の「合掌集落」に与えられたものです。此処「庄川の里」では合掌造りの中をじっくり見学できました。見学時間30分、記念写真を撮って白川郷に向けて出発します。

156号線を少し下ると御母衣湖が見えてきます。周辺は素晴らしい紅葉、(ひるがの高原より標高が低くなり紅葉の真っ盛りです)細長い御母衣湖の中間ぐら「庄川桜、の中野展望台」で2本の巨大な老桜を見ました。樹齢45年、高さ30m、周囲6mの巨木は昭和34年、湖底に沈んだ光輪寺にあった古木を当時の電源開発会社初代総

裁・高崎達之助氏はじめ関係者、地元の協力により移植されて見事開花した、世界でも例を見ない奇跡だそうです。

次に御母衣ダムサイドパークで下車、世界でも珍しい高さ131m、長さ405mのロックフィルダムの勇姿と、出力21万kwの発電所を遠望、電力館を見学して、最終目的地白川郷に向かいます。156号線は山間路線でカーブは多いがトンネル、雪覆い等で整備されています。御母衣ダム工事のお陰でしょう。

12時30分、合掌集落を一望する萩町城址展望台「天守閣」に到着、昼食です。山菜料理で、乾杯の音頭は最高齢、昭和16年卒の秋田さん、「2年前交通事故で大手術でしたが、参加出来るようになって嬉しい」と挨拶された。順次恒例の近況報告で、すぐ予定時間、外に出ます。狭い展望台は観光客で満員、我々は好運にも白川郷を一望できる撮影場所を確保、シャッターを押して頂ける人を探したらこの人が素人写真家、逆光でしたが中部支部最高の記念写真になりました。合掌集落にはバスは入れません。駐車場に移動、此処から自由行動「3時半集合」の指示が出ました。元気な組はこれから20分直接、萩町・合掌造り集落に下りました。

白川村萩町の合掌造り集落は平成7年世界遺産に登録され、テレビなどの情報では行楽期は渋滞で

乗用車は入れない、「駐車場からシャトルバスを出す計画」と聞いていました。行楽シーズンの土曜日、かなりの賑わいですが駐車場までの渋滞は無く、駐車場は合掌集落の入口、此処から徒歩は当然です。やはり「情報を鵜呑みにしてはいけない」と痛感しました。



案内図に従って「どぶろく祭りの館」「明善寺」と周り、重文指定の「和田家」を見学しました。「庄川の里」の合掌造りも立派でしたが重文の和田家、格が違います。以下パンフレットの説明

「式台付き玄関など格式の高い造りを持ち江戸初期と見られる建築文化の粋を今日に偲ばせています。和田家は天正元年(1573年)以来、代々弥右衛門の名を継ぎなかせら江戸時代には庄屋や、番所役人を勤めました。明治21年

市町村制の公布により白川村が誕生、和田弥右衛門は初代村長に選ばれています。」

2階には恒久的な美しさを今に残す生活用具の数々が展示されています。後は三々五々、町並みを見ながらお土産を買い駐車場へ集合しました。

3時30分、計画より30分遅れで(ダムサイドパークなど計画外の見学の為)白川郷を出発、一路名古屋へ向かいます。山間の夕暮は早く、もう紅葉の輝きは見れませんが、此処で幹事から中部支部で校歌代わりに歌う事になった「琵琶湖周航の歌」の歌詞カードが配られ、全員合唱しました。

ドライブイン御母衣で小休止、すぐ高速に乗ります。大野支部長ご手配のデラックスバスで飲み物のサービスも満点、車内は和やかな歓談、又高齢の会員はゆったりとお休みです。

名古屋高速料金所まで快適に飛ばしましたが、此処で急に夕方の渋滞に引っかかりました。結局名古屋駅前に着いたのは7時でした。

しかし3年前、「高山・せせらぎ街道」の8時到着に比べるとずつと楽で、しかも奥飛騨の秘境に世界遺産「白川郷」が見学できた喜びを噛みしめながら、一同来年の再会を約し散会しました。

石川 進(昭26年卒)記

事務局だより

◎新名簿の発行

平成14・15年用名簿が会員各位のご協力により完成いたしました。厚くお礼申し上げます。

会員の皆様には昨年末までにお届け出来たと思っておりますが、未着の方はお手数ですが事務局までご一報願います。

◎役員会開催のお知らせ

平成13年度の役員会を左記により開催いたします。

本部役員及び各支部長(代理)様のご出席をご準備願います。

日・時 平成14年2月2日(土)

午後2時30分より

京都駅前、京都タワーホテル

なお、詳細は追ってご通知いたします。

◎年会費の納付のお願い

平成13年度も年度末が近づきました。本年度年会費未納の方はご多忙のことと思いますが、新年号同封の振込み用紙でご協力願います。

◎会報原稿ご寄稿のお願い

平成13年度より会報の発行を年間4回に戻しており、原稿が不足気味です。

皆様からのご寄稿をお待ちしております。

編集後記

新年明けましてお目出度うございます。会員皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

毎年除夜の鐘と共に清々しい新春が巡って来て、2、3日は穏やかな正月気分が浸れます。

昨年は米国での同時多発テロによる影響も加わり、我が国の経済は大幅に下降し戦後最大の不況ともいわれ、目下デフレスパイラルの渦に巻き込まれ、生き残りをかけて各企業とも必死の対応策に追われ、所謂「リストラ」が一段と身近に厳しく感じられます。

今年も大方の予想では自律的な景気回復は望めないが、国際競争力のある企業には年後半より薄日が射すとの予測もあります。本年もよろしくお願い致します。

松本 博 記

訃報

大12	渡部 兼雄	13・10・7
昭10	山田 昇	13・9・30
昭17	木村和一郎	13・8・7
昭17	山田 定輝	13・8・27
昭21	竹本 文明	13・7・11
平9修	上原 純治	13・6・

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。